
プリキュアオールスターズ プリキュアの世界に大魔王クッパ降臨

夢原光一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ プリキュアの世界に大魔王クッパ降臨

【Nコード】

N5746Y

【作者名】

夢原光一

【あらすじ】

パラレルワールドを管理する時空管理局の夢原光一、田口仁司、牧原京子の3人が時空管理局が新たに作られたプリキュアの世界の支部に任命された。そして、そこにはプリキュアの世界を征服してマリオを倒そうと企てる大魔王クッパ軍団がいた。はたして、3人はプリキュアとともにクッパからプリキュアの世界から追い出すことができるのか？

第1話 プリキュアの世界へ

数多く存在するパラレルワールド。そのパラレルワールドに時空管理局と呼ばれるパラレルワールドを管理する組織である。

その管理局のとある部屋に3人の男女がいた。

??? 「え！今なんと言いましたか？」

男がそうつぶやいた。彼の名前は、夢原光一。この小説の作者であり時空管理局員の一人である。

??? 「君達にプリキュアの世界の支部に任命する。そして、夢原君は、その支部長長官を任せる」

夢原にそう言うのは、時空管理局の最高責任者でありトップでもある時空管理局局長、オタバである。

??? 「局長。何故、僕らにプリキュアの世界の支部に任命したんですか？」

オタバにそう聞くのは、時空管理局員であり夢原の親友である田口仁司である。

オタバ 「ここ最近。プリキュアの世界では年々プリキュアが誕生しているのは知っているよな」

??? 「それは、もちろんです」

そう答えたのは、時空管理局員の牧原京子である。

オタバ 「正義のヒーローが増えていくのは実にうれしいことだが、オールスターで敵を対処するとなかなか機能しないんだ。リズムフラワーの時がいい例だ」

オタバが夢原達にそう言う。

オタバ 「そこで、会議の結果。プリキュアの世界に新たに時空管理局の支部を置くことにした。そして、管理局内でよく働いたお前達に任せることになったんだ」

オタバがそう言う。

夢原 「分かりました。支部長になったからには、職を全ういたします

す」

夢原がオタバにそう言う。

オタバ「頼んだぞ夢原」

そう言っている紙を夢原に渡す。

田口「局長、これは何ですか？」

オタバ「これは、支部があるところの地図だ。それと、プリキュアたちにあつたらその支部に集結させてもらいたまえ。あとは、支部のやり方は、君達に任せる。われわれは、君達のやり方には一切文句を言わないと言っておこう」

オタバが夢原達にそう言う。

牧原「でも、プリキュアが承知するでしょうか？」

オタバ「承知するよ。妖精の国々には許可をもらっておる。ほら」
そう言っているオタバは、6枚の紙を夢原達に見せる。

田口「ホントだ」

田口がそれを見てそうつぶやいた。

オタバ「それと、これはまだ未確認な情報だがあるパラレルワールドの世界の悪の組織がプリキュアの世界に進出したとの情報がある。もし、本当なら全力でプリキュアの世界を守ってほしい！」

オタバがそう言う。

夢原「了解いたしました！」

田口「全力でプリキュアとともに世界を守ります！」

牧原「私の斬鉄剣で敵を成敗します」

夢原、田口、牧原がそう言う。

オタバ「任せたぞ。お前達」

そう言って、3人は局長室をあとにした。

夢原「よし、準備完了！」

夢原は、支部に持って行く荷物をまとめた。

夢原「久々にお前の出番だぞ。ハンマー」

夢原が愛用のハンマーにそう言う。

田口「おーい、光一。そろそろ、出発するぞ」

夢原「はいよ」

そう言っただけ夢原は、荷物を持って部屋を出て行く。

夢原「それにしても多いなお前の荷物」

夢原は、田口の荷物の量に驚く。

田口「当たり前だ。実験器具や発明する専用の機械は必ず持っているんだ。俺は管理局員であるが同時に開発科学部の研究員だぞ」

田口が夢原にそう言う。

牧原「遅いわよ、二人とも」

牧原が二人にそう言う。

夢原「お前も多いな、荷物」

牧原「当たり前よ。女の私には、服と化粧は欠かせないからね」

牧原が二人にそう言う。

田口「とりあえず、この時空転送マシンでプリキュアの世界へ行くぞ」

田口がそう言う。

夢原「でも、大丈夫かこのマシン？噂だとかなり調子がよくないって聞くが・・・」

夢原が心配そうに言う。

田口「心配するな、俺が昨日点検した時は異常はなかったぞ」

牧原「そうだいいけど・・・」

牧原がそう言う。

田口「それでは、プリキュアの世界に出発！」

そう言っただけ時空転送装置のマシンを起動して田口が一番乗りで出発した。

牧原「それ！」

続いて牧原もマシンに飛び込んでいく。

夢原「新たな世界へ冒険か」

そう言っただけ夢原が飛び越えた。

時空管理局3人の物語がここに幕を開けた瞬間であった。

第1話 プリキュアの世界へ（後書き）

- ・ 次回は、いよいよプリキュアの世界へ。そこで待ち受けていたのは・
- ・

第2話 到着したが・・・

時空管理局局員の夢原光一、田口仁司、牧原京子は、無事にプリキ
ュアの世界に到着した。

夢原「ここが、プリキュアの世界か」

牧原「私たちの新しい拠点場所だね」

夢原と牧原がそう言う。

夢原「ところで、ここはどこなんだ？」

夢原は、そう言いながら辺りを見渡すと遊具と自然がたくさんあつた。どうやらここは公園らしい。

牧原「ねえ、仁司。ちゃんと、目的の場所の近くに転送したのよね」
牧原がそう言う。

田口「当たり前だろう、サンクルミエール学園の近くに転送したんだから」

田口が牧原にそう言う。

夢原「でも、ここどう見ても周りに学校らしき建物はないぞ」

夢原が田口にそう言う。

牧原「やっぱり、あの時空転送マシンの調子が悪いって言ううわさは本当だったのね」

牧原がため息をつく。

田口「とりあえず、街の人にサンクルミエール学園はどこか聞いてみようぜ。そうしないとこの地図が役に立たないからな」

田口はそう言いながら紙をフリフリする。

その時だった。

ドカーーーーン

牧原・田口「!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

夢原「なんだなんだ!!」

突然の爆発音に驚く3人。

田口「あっちからだ!!」

そう言って田口は、爆発音が聞こえた場所へと向かった。
もちろん、夢原と牧原も後を追うようについていった。

3人が爆発音が聞こえた場所に着くと

??? 「はぁ!!!!」

??? 「おりゃ!!!!」

謎のコスプレを着た少女たち4人が怪人と戦っていた。

田口「何だ、この世界の人たちはコスプレが好きなのか!？」

田口がそう言う。

牧原「あ、光一。あいつは!」

牧原が指をさした先には、外見はカメようだが、2足歩行で立ち頭にヘルメットを被って無数のハンマーを持つ、ハンマーブロスが×10匹いた。

夢原「ハンマーブロス!」

パラレルワールドの1つ、マリオの世界にしかないハンマーブロスが何故ここにいるのか考え始める夢原に・・・

??? 「そこのお三方!!!ここは危険です!!!早くに逃げてくださ
い!!!!」

ピンク色の髪型の少女が夢原たちにそう言う。

田口「どうする夢原?」

夢原「もちろん、やるさ」

牧原「だろうね」

そう言くと3人は怪人に向かって歩いていく。

??? 「なっ何やってるんですか!!!」

??? 「逃げなさいってば!!!!」

夢原「心配するなお嬢さん方」

夢原が4人の少女にそう言う。

夢原「さて、ハンマーブロス。今度は、俺たちが相手だ!」

そう言って夢原は、ハンマーを、田口は、愛用のマグナムを、牧原は、斬鉄剣を抜き戦闘態勢をとる。

夢原「行くぞお前達！」

そう言って夢原と牧原は、ハンマーブロスたちに飛び掛る。

少女SIDE

??? 「な、何ですか!?! あれは?!」

私たちが戦っている所に男の人がやって来て私たちが逃げてと言っていた所で、男の一人がハンマーを、もう一人の男は銃を、女の人

が剣を取り出した。

??? 「ね、何あれ? (汗)」

??? 「わ、私に言われても (汗)」

田口「心配するな、俺達是这样見えて強いぞ」

私たちの隣に銃を持った男の人がいた。

??? 「あなた達は一体・・・」

田口「そのことならあとでじっくりに話してやるぜ」

??? 「は、はい・・・」

私たちはこの人と一緒に二人と怪物の戦いを見ていたのです。

一ナレーション

戦闘態勢をしてとびかかる牧原と夢原。

しかし、ハンマーブロス達はすかさず避けた。

ハンマーブロスA「誰なんだ、貴様らは！」

ハンマーブロスB「我々、クッパ軍団と知っての所業か！」

ハンマーブロスが夢原と牧原にそう言う。

夢原「(クッパ軍団。なるほど、ハンマーブロスがここにいるのも納得できるな)」

心の中でそうつぶやく夢原。

夢原「ファイアハンマー！」

そう言った瞬間、ハンマーから炎が飛んできてハンマーブロス達に

当たる。

ハンマーブロスC・D「「これでも食らえ！」」

ハンマーブロスたちが無数のハンマーを牧原に向かって投げてきた。

牧原「ていやー！ー！ー！ー！ー！！！！」

そう言って牧原が斬鉄剣を構えてハンマーを斬り始める。

牧原「また、つまらないものを斬ってしまったわ」

某キャラの台詞を言った瞬間、ハンマーが粉々になった。

ハンマーブロスE「なんだ、こいつらは！」

ハンマーブロスF「このままじゃあ、全滅だ！一旦引くぞ！」

そう言ってハンマーブロス達は逃亡を始めた。

夢原「逃がすか！」

そう言って夢原が追いかけ始めようとするが・・・

ハンマーブロスの一人がけむり玉を投げた。そして、煙が晴れた時には、ハンマーブロスはすでにいなかった。

夢原「くそっ！逃がしたか！」

田口「何やってるんだよ夢原。お前のせいで俺の出番がなかったじゃないか」

そう言って田口は、コスプレ少女たちが夢原の近くにやって来た。

???「あゝ、すいませんゝ？」

夢原「うん？」

コスプレ少女の一人が夢原に尋ねてきた。

夢原「何？どうした？」

???「あゝ、いろいろと話さなければいけませんね？」

田口「あゝ、確かにそうだな」

夢原と田口は彼女の言葉に賛同することに決めた。

そして、場所が変わって植物園と呼ばれる施設に場所を移した。

???「時空管理局ですか？」

夢原「ああ、そうだ」

夢原がそう言う。

さて、このピンクっもとい、彼女の名は花咲つぼみ。さっきまで変身していたのは、キュアブロッサム。そして、もう一人変身していたブルーの女の子は、キュアマリンこと来海えりかと言う。ハートキャッチプリキュアの一人である。

田口「それにしても、君達がプリキュアとは・・・」

牧原「正義感あるのね」

牧原がつぼみとえりかにそう言う。

つぼみ「ところで、時空管理局の人がどうしてここに来たんですか？」

夢原「それなんだが、実は局長の命令でこのプリキュアの世界に時空管理局の支部を作ってな、その支部に派遣されたのが俺達なんだ」
夢原がそう言う。

えりか「それにしても、変身せずに強いなんて変わっていますね」

牧原「そうかしら？　っていうか、貴女ね！」

流石にさっきの言葉に少し半ギレとなる牧原である。

「???」「えりか、そんな事を言ったら駄目だよ？」

「???」「そうよ、この人達に失礼でしょ？」

さて、えりかに注意したこの二人は、明堂院いつきと月影ゆりと言う。実はこの二人もプリキュアなのである。なお、プリキュアファンなら知っての通り月影ゆりはプリキュアの最年長で高校生のプリキュアである。

つぼみ「それより、どうしてこの世界に支部を作ることになったんですか？」

そう尋ねてくるつぼみ。

夢原「実は、今プリキュアは、現在確認されているだけで24名いる。その24名を我々時空管理局が統括することになったんだ」

4人「えーーーーー!!!!!!!!!!!!!!」

それを聞いた瞬間、4人は大声を出す。普段クールであるはずのゆりも大声を上げるほどの衝撃発言であった

いつき「な、なんで、プリキュアが統括されるの！」

いつきが夢原にそう聞く。

夢原「局長の話によるとプリズムフラワーの時にいつもとは違うチームのプリキュアが混合して戦ってかなり苦戦した。このままでは、ダメだと決断してプリキュアを統括することになったんだ」

田口「だが、安心しろ。統括と言っても別にこちらからあーやれこーやれと言った命令はしないから」

田口と夢原がそう言う。

つぼみ「よかった」

それを聞いて安心するつぼみ。

牧原「ところで、サンクルミエール学園はどこあるか知らない？この場所から歩いたところに新しい支部があるんだけど・・・」

牧原がつぼみに聞く。

つぼみ「この学校。私達が住む希望ヶ花市の隣の隣の町のその隣の隣の町にある学校だわ」

田口「遠いのか近いのかわからないな」

田口がそう言う。

牧原「それよりどうするのよ仁司！希望ヶ花市の隣の隣の町のその隣の隣の町だっていうじゃない！」

牧原が田口にそう言う。

夢原「仕方がないな、そこまで行くか」

夢原がそう言って立ち上がり植物園を出て行く。

田口「邪魔したな」

田口がそう言って夢原を追うように植物園を出て行く。

牧原「そうだ！もし、暇なら今週末基地に来てもらえるかしら？」

牧原がつぼみ達にそう言う。

えりか「わかりました」

そう言う土地図を渡して牧原は笑顔で二人のあとを追っていった。

3人は、基地を目指して歩いていった。

第2話 到着したが・・・（後書き）

ハートキャッチ組に出会った夢原達。次回は、二組のプリキュアと遭遇します。

登場人物（ハートキャッチ組編）（前書き）

前回登場したハートキャッチプリキュアたちを紹介します。

登場人物（ハートキャッチ組編）

名前／プリキュア…花咲 つぼみ／キュアブロッサム

出身校…私立明堂学園の2年生

部活動…ファッション部

一人称…私

ハートキャッチ組のリーダー。元々は、希望ヶ花ではなく鎌倉で育ち、中学の時に引っ越して来た。花屋の影響から、植物には詳しく、素直且つお人好しで、礼儀正しい性格。出始めの頃は、史上最弱と呼ばれていたが今はそうでもないらしい。年上年下、同年関係なく敬語をよく使うがえりかといつきだけは本人の希望で呼び捨てで呼んでいる。お婆ちゃん子なので言葉遣いが古めかしくなることがあり、四字熟語やことわざをよく知っている。また学校の成績はかなり良い方である（特に国語と理科が得意）。歴代のプリキュアのリーダーと比べるとはるかに頭が良いが逆に運動は苦手で高所恐怖症という弱点を持っている。また時々、メガネをかけることがある。口癖は「私、堪忍袋の緒が切れました！」である。

CV…水樹奈々（代表作…劇場版ポケットモンスターベストウイッシュ1作目・ビクティニ役など）

名前／プリキュア…来海 えりか／キュアマリン

出身校…私立明堂学園の2年生

部活動…ファッション部

一人称…あたし

つぼみの親友でハートキャッチ組の一人。姉がカリスマモデルの影響からファッションに詳しく、裁縫や服のデザインの腕前は高く、一目で相手のスリーサイズを言い当てることもできる。学園でもファッション部の部長として皆を引っ張る。また、時々髪型を変えることがある。身だしなみにも気遣うが、オンとオフとの落差が激し

くだらけているときには寝ぐせのままにしていることもある。メンバーの中で感情によって表情が非常に激しく変化するムードメーカー的存在。元気一杯なお節焼きで、その行動力で相手を強引に引っ張ることが多い。基本的に前向きで明るいマイペースな性格だが、落ち込むことも多い。また「言いたいことは言葉にしないと自他共に伝わらない」という考えを持つ主義で、他人と心の垣根を作らない。反面、内向的な相手の感情に合わせることは苦手で思ったことをすぐ口に出して相手を傷つけることもしばしばある。さらに、苦手なものは勉強と虫で私生活は少々だらしない。おまけに身長に関することを言われることもしばしばある。口癖は「海より広いあたしの心もここらが我慢の限界よ!」である。

CV…水沢史絵（代表作…おおきく振りかぶって　〜夏の大会編〜の栄口の姉役など）

名前／プリキュア…明堂院　いつき／キュアサンシャイン

出身校…私立明堂学園の2年生

部活動…フアッション部

一人称…僕（変身時は私）

ハートキャッチ組の一人で私立明堂学園の生徒会長で理事長の孫娘、そして、生徒会長を務めている。実家は明堂院流古武道の道場で、家族には他に両親と兄がいる。武術の達人かつ成績優秀で、文武両道を体現している。女子ではあるが、病弱な兄の代わりに明堂院流の跡継ぎとなるため、学園生活では真夏でも白い男子用の学生服を着用して男装もしてつばみは初めいつきが女子とは気づかず行為を持ったこともある。穏やかな性格の持ち主で、常に笑顔を絶やさない。兄を生涯守ることを誓い、次期当主および道場師範代という重圧に負けない強い心を持っている。しかし可愛いものに目がないという年相応の少女らしい一面もあり、ダンスには女の子らしい趣味を隠していたりする。格闘術はプリキュアの中で一番である。しかし、つばみのおかげか次第に制服が男子生徒用より女子生徒の制服

を着ており、髪も少し長くなり女の子らしくなったが毎日の鍛錬は怠っていない。口癖は「その心の闇、私の光で照らしてみせる！」である。

CV・桑島法子（代表作…ケロロ軍曹の2代目日向冬樹役とデジモンクロスウォーズの天野ネネ役など）

名前／プリキュア…月影 ゆり／キュアムーンライト

出身校…私立明堂学園高等部の2年生

部活動…なし

一人称…私

ハートキャッチ組の一人で歴代の現役のプリキュアの中では、最年長かつシリーズ初の高校生プリキュアであり、「1人目でありながら4人目」のプリキュア戦士である。聡明^{そうめい}かつ物静かな性格で最年長ながら非常に大人びてクールな子でミステリアスな雰囲気醸し出している。周囲から特別扱いされているももかに分け隔てなく接し、ももかの数少ない友達で、モデルの仕事で授業を欠席しがちなももかのためにノートの写しを渡したり、一緒に弁当を食べたりと、色々と気遣いを見せる。学業の成績は常にトップ。ダークプリキュアとの戦いでパートナーである妖精コロシや変身能力を失うなど心の傷で一時は戦線離脱し、つぼみやえりかから戦闘への参加や指導を懇願された際も断っていたがプリキュアの先輩としての辛辣な発言も多く、つぼみとえりかの危機感の無さにいら立ちを覚えたり、ポプリを危険に晒したいつきを厳しく咎めたりしている。後に変身能力を取り戻した際は先輩として先頭に立ち、他のメンバーを鼓舞させ、戦闘時には指示を飛ばすなど、司令塔としての役割を担う、実質的リーダー的存在である。また、変身しなくても身体能力は高く、敵を蹴り飛ばしたり攻撃を受け止めたりできるので夢原達はもちろん歴代のプリキュアも驚くほど。サバーク博士が実の父と知り心を閉ざしたりその父がデューンに殺された際には復讐鬼になりかけるも、つぼみの説得を受け復讐を乗り越えた。関わった人物との

悲しい別れを経験する等、全編通して幸せとは縁が薄かったが、苦境からは決して逃げなかった。なお、父が生み出したダークプリキュアが実は実の妹だと知ることとなる。口癖は「全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける！」である。

CV…久川 綾（代表作…美少女戦士セーラームーンの水野亜美／セーラーマーズキュリー役など）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5746y/>

プリキュアオールスターズ プリキュアの世界に大魔王クッパ降臨

2011年12月7日00時47分発行